

Leo 財団作成の受賞記事（日本語版）

アトピー性皮膚炎の病態を理解するために先見性のある研究を行う受賞者

本年度の LEO 財団賞アジア太平洋地域賞を受賞した酒井貴史助教の研究はアトピー性皮膚炎を患う世界中の何百万人もの人々の生活を変える可能性を持つ

大分大学医学部皮膚科学講座の酒井貴史助教が 2022 年度 LEO 財団賞アジア太平洋地域賞を受賞しました。

酒井助教の受賞はアトピー性皮膚炎を引き起こす要因となるトリガーや合併症を理解するための先見的な科学的アプローチが評価されたもので、10 万米ドル相当の賞金（研究費）付きです。アトピー性皮膚炎は、皮膚の炎症やバリア機能障害等の特徴とする皮膚疾患で、全人口の 20%近くが一生のうち一度はかかると言われています。

LEO 財団賞は切望されている優れた皮膚科学研究者のパイプラインを強化することにより、皮膚疾患の理解と治療の向上に寄与することを目的としています。この賞によって酒井助教のような有望な若い才能を認め、奨励し、将来のキャリアを後押しできることを願っています。

アトピー性皮膚炎の病態を理解する

酒井助教の研究目標は、アトピー性皮膚炎の病態を理解することと同時に、アトピー性皮膚炎を引き起こす要因の解明や、骨がもろくなり骨折しやすくなる骨粗しょう症など、他の病気との関連性を明らかにすることです。

酒井助教は LEO 財団賞受賞について、彼自身の研究とその潜在的な影響力を活用する上で重要な役割を持つとコメントしました。

「私の研究が日常的にアトピー性皮膚炎に苦しんでいる世界中の多くの人々の生活を改善する解決策に貢献することを願っています。さらに今回の LEO 財団賞受賞は国際的に認知されたという点、そして、私の今後の研究の財政面の強化という点で大変大きな意味を持っています。」

LEO 財団の最高科学責任者であるアンネ - マリー・エンゲル氏は「LEO 財団が酒井助教の研究を支援できることを喜び、私たちは酒井助教のような卓越した、決断力と先見性のある科学者に LEO 財団賞をお渡しできることを光栄に思います」と述べ、「酒井助教は、まさに私たちが LEO 財団賞で支援したい野心的な科学者の一人です。今後、急速なキャリアアップを遂げ、アトピー性皮膚炎領域の生物医学研究に多大な貢献をされることを確信しています」とコメントしました。

酒井貴史助教の受賞は 2022 年 12 月 2 日、長崎市で開催された第 47 回日本研究皮膚科学会総会において、梶島健治学会理事長から発表されました。

LEO 財団賞について

LEO 財団賞（10 万米ドル相当の賞金：研究費）は、皮膚研究への卓越した貢献と、皮膚疾患の新しい治療法を開発する可能性を持つ、世界中の優れた若手研究者や科学者を表彰するものです。

この賞は「南・北アメリカ」、「EMEA（欧州・中東・アフリカ）」、「アジア・太平洋地域」の 3 つの地域で、それぞれ年に 1 回ずつ授与されます。独立した国際的なグローバル審査委員会 [Global Review Panel](#) により、すべての応募書類がオープン・コンペティションで審査されたうえで、賞が授与されます。審査委員は、毎年、3 地域の皮膚科学会によって任命されます。次回の募集開

始は 2023 年 1 月 1 日から、自薦の締め切りは 2023 年 1 月 25 日です。

LEO 財団について

LEO 財団は、デンマーク最大の商業財団の一つであり、製薬会社 LEO Pharma の過半数所有者として活動しています。財団の主な目的は、会社の長期的な発展と成功を確保することです。

LEO 財団は、所有権に加えて、皮膚疾患に関する最も優れた国際的な研究を支援し、デンマークを皮膚研究の世界的なビーコンにすることを目的として、慈善助成金を提供しています。本財団はデンマーク国内および世界中で 1 億 2 千万ユーロ以上の助成金と賞を提供してきました。

[詳しくはレオ財団のウェブサイトをご覧ください](#)

Leo 財団が作成した紹介ホームページ（写真）



2022

- ▼ Award application deadlines
- ▼ Guidance
- ▼ Application process
- ▼ Global Review Panel
- ▼ Awardees

Apply here
→



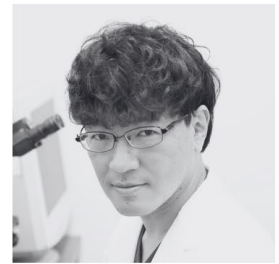
Region Americas

Dr Shadmehr Demehri



Region EMEA

Dr Esther Hoste



Region Asia-Pacific

Dr Takashi Sakai